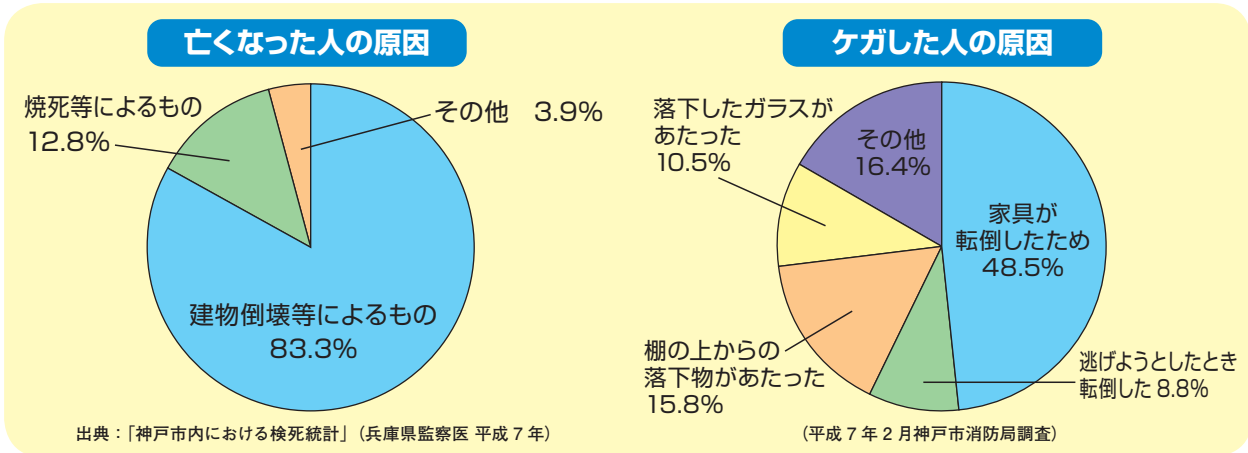


阪神・淡路大震災からの3つの教訓

1 建物の耐震化と家具等の転倒防止の重要性

死者 6,400 人余、負傷者約 43,800 人の大惨事となった阪神・淡路大震災。亡くなった方の 80%以上は建物の倒壊等によるもので、ケガをした方の半数近くは家具の転倒によるものでした。



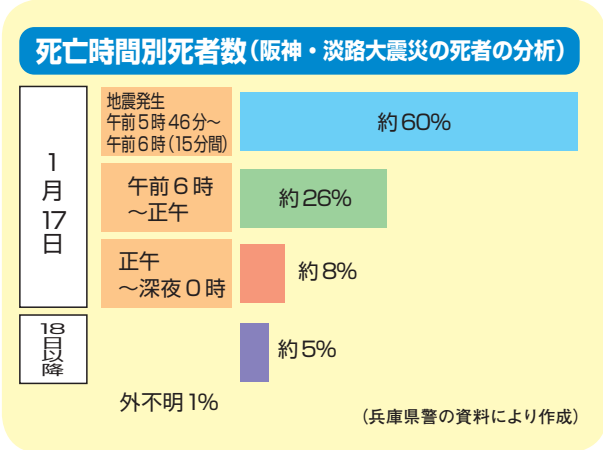
わが家での安全な暮らしのために

- 昭和 56 年 5 月以前の木造住宅は、すぐに市役所に相談を
無料の耐震診断や補助金の制度があります。(8 ページ参照)
- 家具等の転倒防止をしよう(9 ページ参照)
個人で出来ない場合、業者に依頼することができます。
その時は、まず市の危機対策課に相談して下さい。
- 「**家庭内 DIG 地震がきてもわが家で暮らす方法**」でチェックしましょう。(21 ~ 23 ページ参照)

2 被害者をただちに助けることの重要性

阪神・淡路大震災では、死者のうち発生から 15 分間で約 60%の方が、また、約 6 時間で約 86%の方が亡くなっています。

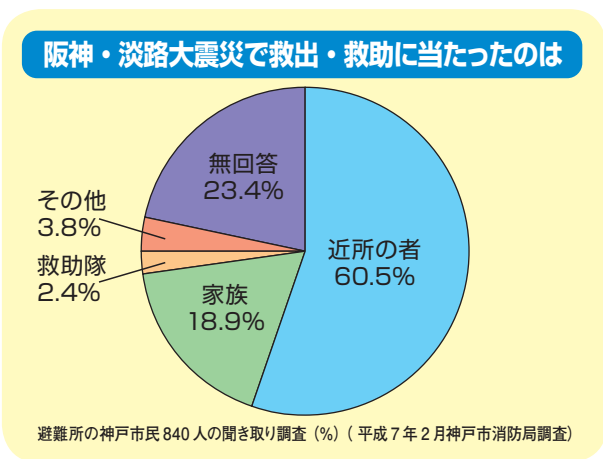
いざという時のために、地域の防災訓練等に積極的に参加して、救出・救助や救急救命法を体得しておきましょう。(24 ページ参照)



3 自主防災活動の重要性

災害発生の際は、行政による緊急対応には限界があります。実際、阪神・淡路大震災で被災者の救出・救助に当たったのは、80%近くが近所や家族の方でした。

自主防災活動に積極的に参加して、災害に強い地域づくりを進めましょう。(25 ページ参照)



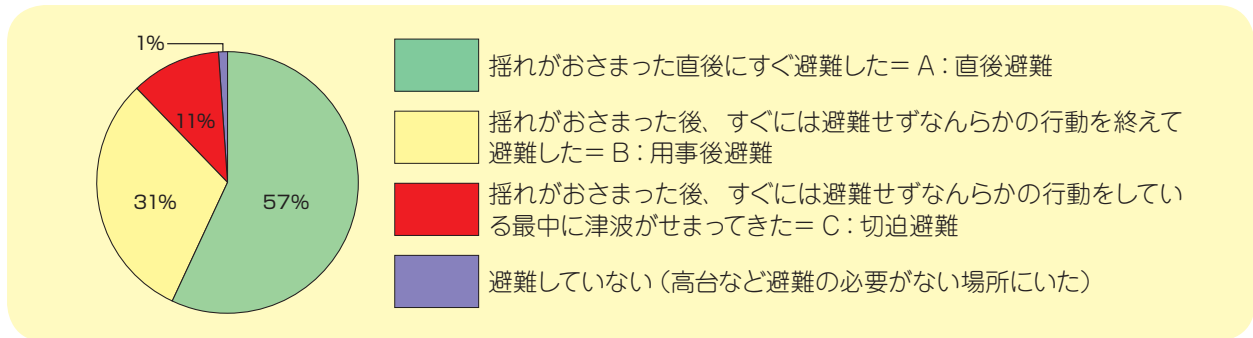
東日本大震災からの教訓

—東日本大震災の津波で多くの尊い命が失われた理由は？—

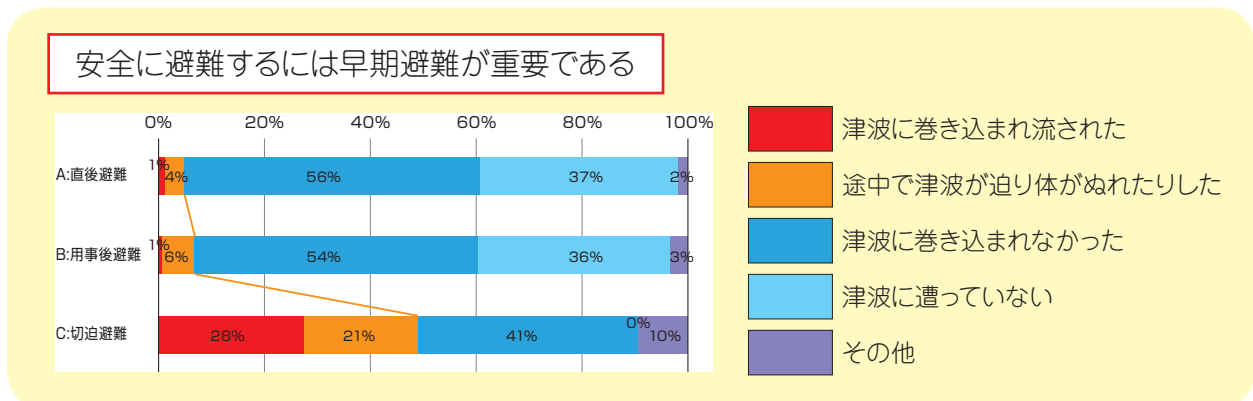
東日本大震災では、15,800人以上の尊い命が失われ、その90%以上が津波によるものでした。国は岩手、宮城、福島3県の沿岸地域で避難所等に避難した870人を対象にアンケート調査「平成23年東日本大震災における避難行動等に関する面接調査(住民)」を行いました。

その調査結果は南海トラフ巨大地震で大きな津波被害が予想される本県にとって多くの教訓が読み取れます。

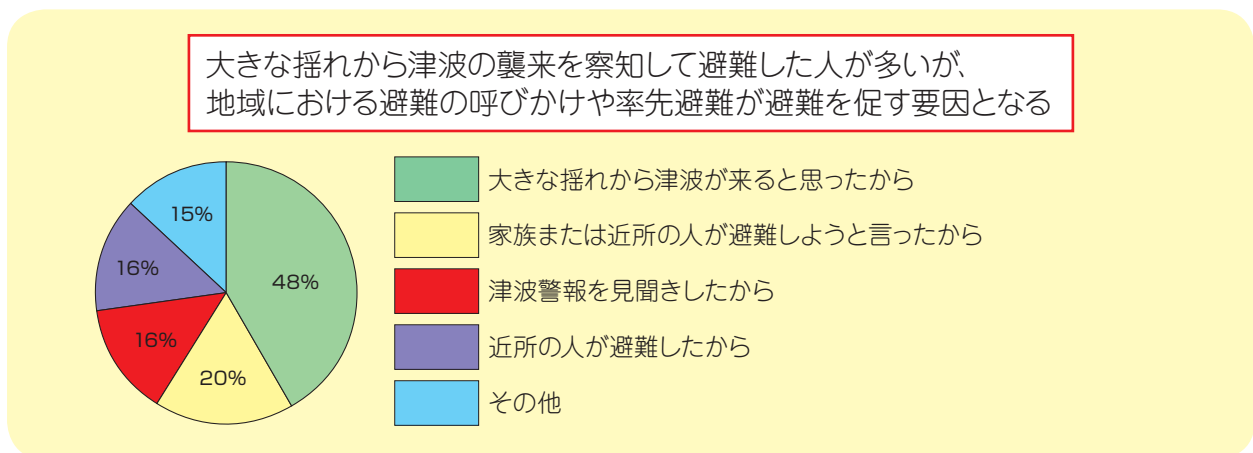
1 地震の揺れがおさまった後の避難行動(複数回答)



2 避難行動パターンと津波との遭遇の関係

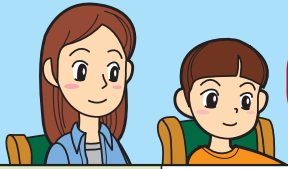


3 避難したきっかけ(複数回答)

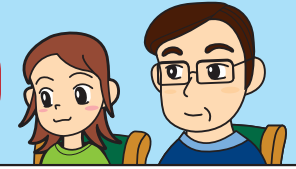


想定される南海トラフ巨大地震による静岡県沿岸を襲う津波は東日本大震災の津波に比べ場所によってはより早く、津波が到達することが予想されます。

そのため「地震だ、津波だ、すぐ避難!」を市民1人1人が肝に銘じ訓練を通じて体でおぼえることが重要です。



わが家の防災メモ



住所			
世帯主		電話	

緊急連絡先	連絡先	電話	連絡先	電話

家族の連絡先	氏名	電話 (会社・学校)	住所	メモ	

避難場所	家族の集合場所	
	発災後に緊急避難する場所	
	自宅が使用できない場合に避難生活を送る場所	

家族の緊急用データ	氏名	生年月日	血液型	アレルギー	常備薬	病 気	

●焼津市役所危機管理部危機政策課 〒425-0041 静岡県焼津市石津728-2 TEL/054-625-0128 FAX/054-625-0132
 ホームページアドレス <http://www.city.yaizu.lg.jp/g01-008/index.html> メールアドレス kikiseisaku@city.yaizu.lg.jp

編集発行 / 焼津市危機管理部危機政策課